
原油市場展望

2018年3月



調査部 マクロ経済研究センター

<https://www.jri.co.jp/report/medium/oil/>

- ◆本資料は2018年3月1日時点で利用可能な情報をもとに作成しています。
- ◆照会先：藤山光雄（Tel: 03-6833-2453 Mail: fujiyama.mitsuo@jri.co.jp）

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。

原油価格見通し：60ドル台半ばでは上値の重い展開となる見通し

◆一時60ドル割れも、その後反発

2月のWTI原油先物価格は、振れの大きい展開に。上旬には、株価の急落やドル高の進行、米原油生産の拡大などから、60ドルを割り込む水準まで下落。

もっとも、その後は金融市場の落ち着きやリビア情勢の緊迫化、OPEC高官による減産姿勢の堅持を示唆する発言などを背景に強含み。月末近くには、再び60ドル台前半へ上昇。

◆投机筋の買い越し幅は高水準を維持

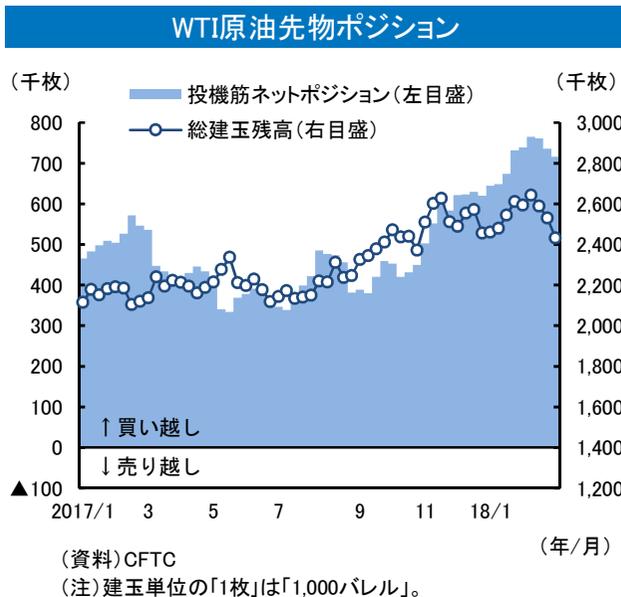
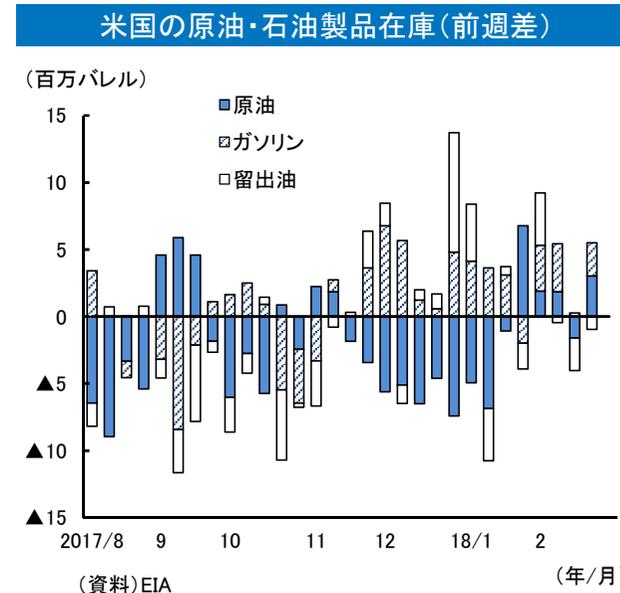
投机筋の買い越し幅は、株安を受けた投資家のリスク回避姿勢の強まりなどから縮小。もっとも、縮小幅は小幅にとどまり、引き続き高水準の買い越し。

◆原油価格見通し：60ドル前後の推移に

WTI原油先物価格は、新興国景気の回復や米国景気の堅調な拡大、OPECやロシアによる減産姿勢が価格下支えに作用するほか、中東や北アフリカをめぐる地政学リスクの高まりが価格上振れ要因に。

一方、60ドルを大きく上回る水準では、米国シェールオイルの増産ペースが加速し、需給緩和懸念が強まる見込み。また、それを警戒したOPECやロシアによる協調減産の見直し観測の台頭も、上値の抑制に作用。

総じてみると、振れを伴いながらも60ドル前後を中心とした推移に落ち着いていく見通し。



トピック：原油輸出国としての存在感を増す米国

◆米国の原油輸出が急増

米国では、2015年12月の原油輸出の全面解禁後、欧州やアジア向け輸出が拡大。昨年秋以降は、日量150万バレル前後に達し、一段と増勢が加速。

輸出拡大の背景には、①昨夏に襲来した大型ハリケーンの影響による米製油所の稼働停止を受け、精製前の米国産原油がダブつくとの観測が強まったこと、②中東情勢が緊迫し、その影響を受けやすい北海ブレント原油価格がより大きく押し上げられたこと、などから米国産原油の割安感が強まったことが指摘可能。

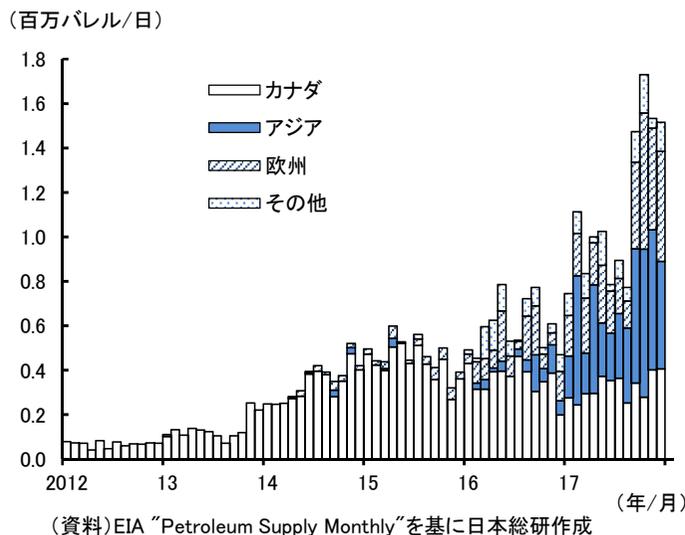
足許でハリケーンの影響は剥落しているものの、米シェールオイルの増産や中東情勢への懸念などを背景に米国産原油の割安感に残り、先行きも米国の原油輸出は増加基調が続く見込み。

◆既に天然ガスでは純輸出国に

原油先物市場では、米国の原油輸出拡大とともに、WTI原油先物取引の出来高が北海ブレント原油に比べ大きく増加。急増する米国産原油の国内での滞留などから、ひと頃はWTI原油先物価格の国際指標としての地位が危ぶまれていたものの、再びその位置付けが見直されつつある状況。

また、米国では、シェールオイル生産の拡大に伴い、原油の純輸入量が1990年代半ば以来の水準まで減少。さらに、天然ガスは2017年に60年ぶりとなる純輸出国に転化。シェール革命を契機とした米国の「資源国」としての存在感の高まりが、一段と意識される格好に。

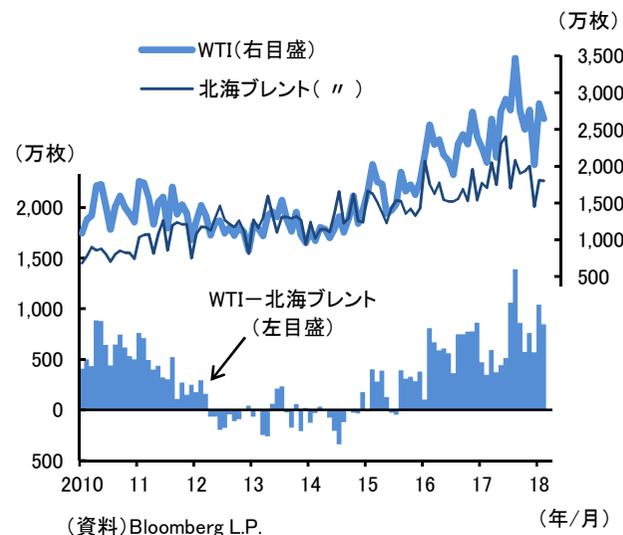
米国の地域別原油輸出



WTI原油と北海ブレント原油の価格差



原油先物取引の出来高



米国の原油・天然ガスの純輸入量

